

D-BREAK Growth Kyoto

Day-1

イントロダクション

2024.11.22

Deep Issue（重大な社会課題）の解決には革新的なテクノロジー（Deep Tech）が必要であり、その最前線こそがDeep Techスタートアップ。今、科学技術・テクノロジーをベースにした、社会にインパクトを与えることができるディープテックスタートアップの創出は、日本のみならず世界から注目を集めています。このプログラムは、京都から、地球・人類の社会課題解決に挑戦するDeep Techスタートアップの創出・成長を目的に、Deep Techスタートアップに特化した資金調達戦略、知的財産戦略、開発ロードマップ構築、海外戦略に関するセミナーを開催します。



UntroD Capital Japan株式会社 取締役 上島 哲

2022年にリアルテックファンドを運営するUntroD Capital Japanにバリューアップ統括として参画し、投資先の成長支援戦略策定と実行を担当。2023年に同社の執行役員、2024年に取締役に就任。同社参画以前は、宇宙・ロボット・自動認識のディープテックスタートアップで経営、事業戦略・マーケティング・セールスの責任者等を歴任。それ以前はGlobal Logistic Propertiesで新規事業と商品開発をリード、日本生命保険相互会社では不動産・営業企画業務に従事。

D-Break (Growth Kyoto) イントロダクション

この直近の10年間でスタートアップを取り巻く環境は変化し、ディープテック・ベンチャーキャピタルとしての我々の考え方も大きく変わりました。スタートアップ経営に対しどういった支援が必要か、ディープテック・ベンチャーキャピタルとしてどういった立ち位置に在るべきか、過去の反省に基づき、新たな知見を得て、この「D-Break (Growth Kyoto) 2024 京都発Deep Tech Startupプログラム」は構想されました。2023年にテストプログラムを実行し、その結果を踏まえて今回は全16講座、1日2講座×全8日間のプログラムで実施します。

本プログラムの特徴は知財、製造、ファイナンス、経営組織といったディープテック・スタートアップに必要な内容を組み込んでいることであり、さらに、それぞれの要素単

独のテーマだけで説明するのではなく、必要になる要素すべて組み合わせでお話する形を取っていることです。

たとえば知財を成長させることと資金調達、あるいは市場分析を一体的に捉えて、どう判断していくべきなのかを問う講座になっています。

現在、ディープテック・スタートアップをめぐる環境また評価については、たとえば政府による支援等は心強いものの、大きな成功事例が出ているとはいええない状況です。実際、新規技術の研究開発には時間がかかります。さらに、既存のマーケットへ進出し成長していくという事業としての成功には非常に時間がかかるものです。

我々が危惧するのは、現在ディープテックに向かっている興味、そしてそれに基づくさまざまな支援が、このままだとなくなってしまうのではないかとことです。その結果、この領域に興味をもち得る優秀な人材を集めることが

できなくなり、新たな事業も生まれません。そうした状況を打破するために、さまざまなスタートアップを育成し成長させていくことが急務だと感じています。

したがって、本プログラムは「最速、最大で成長し得るスタートアップの創出」、これにフォーカスした内容になっています。

一般にイメージされるディープテック・スタートアップとは、研究者が創業者であり、CEOとして事業を推進していくケースです。私どもの投資先も90%以上のCEOが研究者です。よく問題になるのが、彼らCEOは知財に関しては理解しているけれども、知財の守り方、成長のさせ方、さらに事業をどう発展させるのか、そのための組織のあり方はいかようなのか、そのあたりを認識しないまま進んでしまっていることです。

これをなんとかするために、さまざまなベンチャーキャピタル、さまざまな支援パートナーが手を差し伸べてきたわけですが、ベンチャー企業側の反応には2つパターンがあります。

(1) 事業、事業計画の見直しが必要と進言しても、そもそも理解しようとしなくて、支援自体を受け入れない。

(2) 支援したものの経営者が自立できず、ずっと支援を求め続ける。

これらを打破するためには、当のベンチャー企業の経営チームのケイパビリティ、つまり「どういった支援が必要なのかを認識する能力」を高めることと、タイムリーかつ十分なリソースをもって支援し得るパートナーの存在が必要です。

つまり、経営チームのリテラシーを高めるための課題発見、そしてその裏返しである最大の成長、最速の成長を実現するための考え方を共有するのが、本プログラムの目的です。

また、本プログラム実施を通じて、ベンチャー企業と業界を代表する支援パートナーとを引き合わせ、すぐに頼れる確かな環境の構築にも寄与できると考えています。



京都知恵産業創造の森

UntroD
Capital
Japan



KOBASHI
ROBOTICS